

### リフォーム情報



急ピッチで床張りが進んでいます。二間をつなげる為、床面の高さを揃えるので、一方は元の床の上に貼ります

床を張替ます。元の床材を全て剥がしました。築45年、床下は土のまま

床張りと同進行で、キッチンの設置が終了しました。工事中のキズを避けるためしっかりと養生が施されています

只今  
施  
工  
中

創業110年の信頼と実績 太田工業株式会社 ☎ 0120-552-448

**お詫びと訂正** 2月号で掲載いたしました「特別養護老人ホームソレイユ甲府便り」の記事でご紹介した写真のテロップが2か所誤字がありました。お詫びして訂正いたします。



敬老会の様子



秋の楽しみ焼き芋会

COVIDO-19新型コロナウイルス感染拡大により世界的に物流が滞っていたり、物資の高騰が続いています。不自由な生活をはじめ社会生活が大きく変わって来ています。リフォームについても建材、住宅機器等の入荷が遅れております。ウォシュレット・給湯器・木材等は春頃まで遅延が続くとされています。

**編集後記** 色鮮やかな紅梅の花をあちこちで見かけます。これから桜や桃、<sup>はなかいどう</sup>花海棠等が順々に可憐な花を咲かせます。花海棠、可憐な花のイメージから浮かばない文字を書きます。「棠」中国では「梨」の意味で、海の向こうから渡来した梨というのが「海棠」の語源だそうです。祈年祭が行われ、地区の代表の方々が参列しました。厳かな祝詞、玉串の奉呈、宮司様のお話に耳を傾け「お桑の棒」の神楽を拝見、心が洗われる思いでした。我が家の年よりの話によると、この時のお桑の棒を田に水を引き入れる時に水取口に刺して、酒や塩、米を備えたとの事。稲作に欠かす事の出来ない大切な水が、絶えることなく田に満たされる様にとの祈りだったのかもしれませんが。最近では区内では見かける事が少なくなった水田ですが、お桑の棒、他の様々な農作物にも豊作をもたらして下さる事でしょう。



先入観にとらわれず  
根源を  
ありのまま見る  
能満寺

## 新型コロナウイルス感染拡大 あなたに合った支援

今月号では、長引くコロナ禍や自粛要請で大きな影響を受けている皆様に、国や甲府市でおこなっている支援の一部をご紹介します。

### 事業復活支援金（経済産業省）

新型コロナウイルス感染症により、大きな影響を受ける中小法人、フリーランスを含む個人事業者に対して、事業規模に応じた給付金を支給。

申請期間：2022年1月31日～5月31日

給付額：基準期間の売上－対象月の売上×5か月分

【申請相談窓口】国の事業復活支援金を申請する事業者の相談窓口を市役所内に設置。

5月末まで週に2回程度開設。詳細は市ホームページをご確認ください。



事業復活支援金

### がんばろう甲府！事業応援金プラス（甲府市）

感染症の影響により売上が減少した市内事業者の事業の継続・回復を応援するため、国の事業復活支援金を受けた方に対して、国の支援金と連動し、申請手続きを簡素化し、速やかに応援金を支給。対象者：市内に事業所のある中小法人で、国の事業復活支援金の給付決定を受けたもの。

申請期間：2022年2月14日～7月31日 支給額：個人一律5万円 法人一律10万円

詳細は市ホームページをご確認ください。



応援金プラス

### 特定世帯等臨時特別給付金・こふん臨時特別給付金

①家計急変世帯（コロナの影響により家計が急変し、収入が非課税相当の世帯）に対する給付金

②18歳以下の子供のいない課税世帯で、均等割のみ課税相当の世帯に対する給付金

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和3年1月以降の収入が減少し住民非課税相当の収入となった世帯等を対象とした給付金については、甲府市ホームページをご確認ください。

【申請相談窓口】

臨時特別給付金コールセンター

(TEL0120-267-153)

受付窓口（本庁舎2階介護保険課窓口東隣り）

詳細は市ホームページをご確認ください。



特別給付金



弊社は、1912年に太田塗装店として甲府市舞鶴城近くの桜町に誕生しました。昭和48年に現在の蓬沢町に移転し、以来この地にて建築仕上工事を行っています。「チャオチャオわいわいクラブ」は地域貢献として毎月1日、五味新聞店様のご協力により玉諸地区へ3000部、山梨日日新聞の折り込みでお届けしています。どうぞお楽しみください。

## 新型コロナウイルス感染症の体験から

コロナウイルスの変異株であるオミクロンが世界的規模で流行しています。毎日発表される感染者の数に驚くばかり、今や誰が感染しても不思議ではない状況となっています。玉諸地区在住の匿名希望様より貴重な体験談をご寄稿いただきました。



### 思わぬ感染から

私は、実母と妻の3人家族です。テレビや新聞で報道されているオミクロン株、それほど緊張感をもって捉えてはいませんでした。日々、推奨されている感染予防対策を行い、県外との交流も自粛していました。「まさか自分の家庭で感染が起こるとは」非常に驚きでした。

1月下旬、妻が喉の痛みを訴え、仕事を休み近くの病院での診察の結果、「PCR検査の必要あり」とのこと。甲府市立病院が指定され、結果は陽性でした。その後、自宅療養となりましたが、高熱が続き、全身の痛みと喉の痛みと同時に声が出なくなりました。この間、1階と2階で生活空間を分け、ドアノブや手摺はもちろん壁や引き出し等、手の触れる範囲の除菌に努めました。食器は紙皿や割り箸を利用し、洗濯物は袋に入れて口を固く縛り保管しました。ティッシュペーパー等も袋に入れて口をしばり、手を触れない様にしました。

その2日後、私も陽性となりましたが幸にも、熱もさほど上がらず、少々どの痛みと倦怠感程度でした。その頃、保健所からの指示で妻のホテルでの療養指示が出されました。発病から4日目の事でした。その2日後、私もホテル療養となり、妻と同じホテルでの療養となりました。発症からホテルに入るまでの数日、大変不安な日々を過ごしました。保健所に問合せでも、「調べて折り返します」との回答、いつまで待っても折り返しの電話はありませんでした。日々、深刻な状況となっている様子が電話の向こうから伝わってきましたが、自分自身も不安な中で頑張っていた保健所の方々への気遣いを無くしていた事に今になって気づきました。申し訳ない限りです。

先の見えないホテルでの療養生活は、混沌としたものでした。食事ほとんどがお弁当で、病気療養ということ踏まえ、病人食として配慮が欲しかったと思います。特効薬が未だ開発されていない未知のウイルスに打ち勝つ為にも、食事は最も大切だと思います。贅沢ではなく、熱が高くても喉を通りやすい品や免疫力を付ける食品の活用等が課題だと思いました。

妻は私より早く入ったので、その分早く家に戻されました。この時、まだ熱も有り、体や喉の痛みも残っていました。自分と比較しても明らかに症状が重い状態でした。10日過ぎた事が理由で症状の重い妻が家に帰り、軽症の私が療養を続けるという腑に落ちない状況となりました。日数だけでなく個人の病状にも目を向けて判断して欲しいと思いました。

療養中、いろいろな事に思いをめぐらせました。家庭内の感染について、社会復帰後の生活、感染経路について等、不安は尽きませんでした。

同居しながら感染を免れた母、なぜだろうか？母は私達とは別の歯磨き粉を使っていて、歯ブラシの置く場所も違います。こんな小さな事に気を遣うのも感染予防の一つかもしれません。

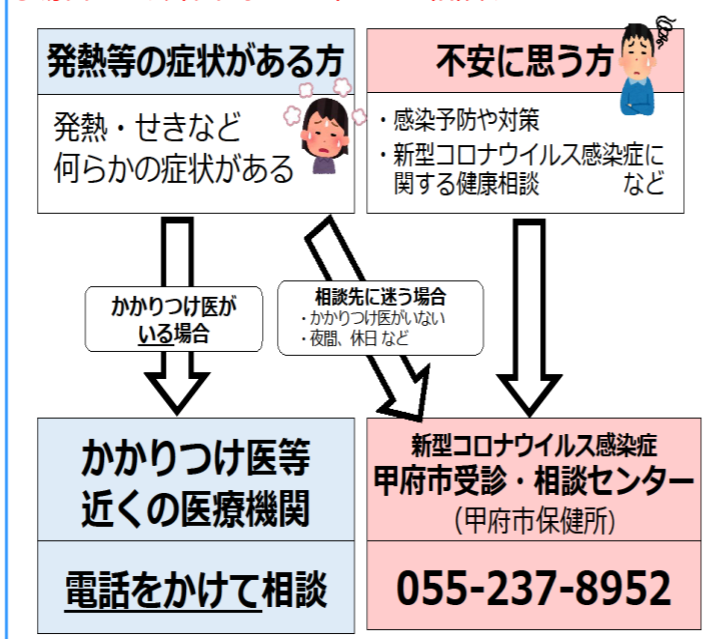
自分の職場、妻の職場、これまで通りに仕事ができるのだろうか、初めてコロナ差別という言葉と向き合いました。誰にでも起こりうる事、その危機に世界の人達が直面しており、感染したからと行って誰も責められない状況にあります。みんなでこの危機を乗り切って誰もが住よい社会となる事を切に願います。

最後に、多くの医療従事者の方々や毎日遅くまで対応に追われていらっしゃる保健所職員の皆様に心からの感謝とエールを送りますと共に、多くの患者さんの一日も早いご回復をお祈りします。

大変な中、本紙にご寄稿頂きありがとうございました。

### 新型コロナウイルス感染症・相談について

【相談の目安】発熱だけでなくかぜ症状（咳、のどの痛み、頭痛、倦怠感等）や、味やにおいがわからない等の異常を感じる場合には、外出を控えお早めにご相談ください。



**会食の際はオミクロン対策の徹底を！**

マナーを守り、お店の感染対策の呼びかけに協力をお願いします

【入店前のポイント】  
 ◇体調が悪い時は、会食を控えましょう  
 ◇感染対策が徹底した「認証店」をおすすめします

【食事する時のポイント】  
 ◇会話の際はマスクを着用しましょう  
 ◇どんなに楽しくても大声は控えましょう  
 ◇大皿を避け個食を徹底、箸やグラスも共用は控えましょう  
 ◇食事の前後など、こまめに手洗いしましょう  
 ◇飲食店の呼びかけに協力を



## 祈年祭の神事と御桑の棒の舞奉納



2月11日（金・祝）午後1時半より、玉諸神社拝殿において、祈年祭の神事並びにお桑の棒の舞奉納がとり行われました。玉諸神社崇敬総代の皆様、各地区自治会長、郷土の祭り実行委員の方々が参列し、感染予防徹底を徹底し厳かに執り行われました。



水鉢にて身を清め



山海の幸を奉納



地域の安寧を願い代表者による玉串奉納

### 神楽舞「お桑の棒」の舞が奉納されました



青柳陽一さん（国玉町）により神楽舞が奉納されました。まず、拝殿の四方に四季を詠んだ詩歌を唱えながら米を蒔きます。次に、柳を束ねた棒で田の四方に鋤入れをする所作を行い今年の豊作を祈ります。詩歌を唱えるのは、古代、自分の思いを詩に詠み相手に伝える事が行われていました。その名残ではないかと推測できます。

「お桑の棒」の神楽舞が現存しているのは、伊勢神宮近辺と玉諸神社のみで、大変珍しい神楽舞です。長く伝承される事を願います。

(中央) 神見たか、良き御田なれや、あら糧の葉に麗しみ民の、太先  
 (東) まち神の、いん銀取て、神つどい、耕す春の、天の広園  
 (南) 夏繁み、天の安田の見たものは、眺めてりすと、そこねやはする  
 (西) 御食国の、豊けき秋も、数みえて、足穂は東に、しなそめにけり  
 (冬) 御冬すぎ、心修めて、諸神に、まず奉る、天の豊御食、大腹堤、打てばこそ実が入る、万歳楽

お桑の棒で唱えられる詩です。読んでみると、懸命に耕作し、豊作を祈る古代人の心が伝わってきます。

祈年祭では、今年1年、食べ物に困ることなく地域の人たちが平和に暮らせる様にとという意味があります。令和3年秋に収穫された穀物で令和4年の秋まで、みんなが飢える事が無いように、そして令和4年が豊作となるようにと願いを込めて、農耕がはじまる時期に行われる祭事です。

(小山宮司 談)

### 厄除地蔵祭り 頑張る玉諸の企業が出店

2月13日、14日に開催された、甲府盆地に春を呼ぶ厄除地蔵祭りに玉諸地区に拠点のある「甲州だるま」（国玉町）「海老屋」（七沢町）が出店しました。多くの行事が縮小される中、頑張っている姿にパワーを頂きました。

厄除地蔵尊大祭は、二体のご本尊のひとつ「石造地蔵菩薩座像」が、この日の24時間だけ耳を聞き、善男善女の願いを聞き入れ厄難を逃れることができると言われています。

また厄年の男女が、年の数だけ1円や、あめ玉などの丸い物をお地蔵さまにお供えすると、厄を逃れられるとの言い伝えもあります。



エコキャップ運動 上阿原新田自治会様、蓬沢自治会様、里吉三丁目自治会様、むつみ会様、三井様（住吉）渡邊様（里吉三丁目）、落合邦彦様（国玉）ご協力ありがとうございました。